

〈資 料〉

ある元日本軍「慰安婦」の回想 (5)

——安点順さんからの聞き取り②——

吉 見 義 明

はじめに

2013年3月9日に行った安点順アンジュムスンさんからの聞き取りは、本誌第35号(2014年2月)に掲載したが、その後、2014年3月23日に、再度、水原のご自宅でヒアリングを行った。韓国挺身隊問題対策協議会コンミヒンの尹美香代表が同行してくださった。通訳ヤンチンジャは梁澄子さんをお願いした。

前回は初対面でもあり、安点順さんは緊張しておられたためか、語りは言葉すくない状態であった。しかし、今回は緊張も解け、積極的に証言していただけたように思う。その結果、より詳しい内容の証言をえることができた。その主なものを列記すると、つぎのようになる。

- ①少女時代に暮らしたポクサゴルの明らかに農村ではない様子がより明らかになった。
- ②慰安所の間取りなどがより鮮明になった。部屋数が少なく、二人同室で軍人の相手をさせられたというすさまじい様子が語られた。
- ③多くの軍人の相手をさせられ、身体が痛い時や具合が悪い時にも、軍人の相手をしなければならない辛さが語られた。
- ④梅毒に感染させられて治療に苦しんだが、それは戦後も継続したことが語られた。
- ⑤生まれ変わったら、良い家庭を築いて、暮らし

てみたい、という夢が語られた。

前回の聞き取りでは、連行された年を1941年(満14歳の時)と推定していたが、今回の聞き取りでは、安点順さんが「慰安婦」として連行された時は数え14歳で、解放された時は数えで17歳、帰国した時は数え18歳だとのべられた。彼女は辰年の12月2日(旧暦)生れなので、新暦では1929年1月生まれとなるであろう。連行時に数え14歳だとすると、時期は誕生日より後なので、満では12歳の時で、それは1941年となるので、変更する必要はない。しかし、解放時は数え17歳だとすると1944年、帰国した年は数え18歳だとすると1945年となり、計算が合わないことになる。このことを追加しておきたい。なお、本連載第2回(32号)に載せた李秀山さんの姓名は正しくは「李守山」であることが判明したので、ここに訂正しておきたい。

以下、文中の〔 〕は编者または訳者による註である。

*本稿は、科学研究費平成26年度(2014年度)基盤研究(B)(一般)「日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力の比較研究」(研究代表者、林博史)の研究成果の一部である。

安点順さんからの聞き取り：2014年3月23日
水原の安さんの自宅にて

麻浦ボクサコルの佇まい

吉見 この前お話を聞いてまとめたんですが、聞き漏らしたことがあると思いましたが、またよろしく願います。話を飛び飛びで聞きますし、胸の痛むお話をまた聞くことになりますので申し訳ないのですが、よろしく願います。

安点順 大丈夫よ。私たちのためにやってくれていることなんだから。

吉見 では初めに、麻浦のボクサコルで娘時代を過ごされましたが、当時ボクサコルには建物がたくさん建っていたのでしょうか、それとも農村のような感じだったのでしょうか。

安 今とは大分ちがうよ。少し行ったら麻浦国民学校があって、右の方にしばらく行ったら麻浦刑務所。

尹美香 麻浦警察署。

梁澄子 警察署ですか、刑務所ですか。

安 刑務所。罪人が暮らす刑務所。刑務所がそこにあって、それが大きな建物で、他に大きな建物はなかった。

吉見 農村だったのでしょうか。

安 農村じゃないよ。

梁 田畑は全然ない？

安 うん、田畑はなくて空き地。ボクサコルはちょっと高いところにある。必要なものは全部あったよ。精米所もあったし、あれもこれも、必要なものは全部あったよ。

梁 当時の精米所というのは人が手で米を脱穀するような？

安 ちがうよ。機械でやってたよ。多分、日本人が精米所を運営してたと思うよ。

梁 では、その精米所は大きな建物でしたか？

安 大きかったよ。

梁 その精米所が、ハルモニが連れて行かれることになった、あの……。

安 うん。そこで米を量る秤、当時は米はカマスに詰めたじゃない。それを量る秤が大きいのがあって、それで体重を量って……。あいつらが私に乗れって言って……。〔秤の絵をかきながら説明がしばらく続く。〕

連行・移送時の様子

吉見 体重を量った後、中国に連れて行かれるわけですが、連れて行った人についてお聞きしたいんですが。

梁 その時何人でしたか。

安 3、4人だったと思う。その村からは3、4人で、他の村でまた何人か……。

梁 それで全部で12人くらいになったと前回お聞きしましたが、連れて行った軍人は何人ですか。

安 軍人は7～8人だった。

梁 その7～8人はボクサコルからずっと同じ人が中国まで行ったんですか。

安 同じ人も行くし、また、行かない人もいるし。人がしょっちゅう変わったよ。

吉見 体重を量った時にいた人はずっと中国まで一緒にいましたか。

安 最後まで行った人は運転する人と、それから、運転席の横に、ちょっと階級の高い人だったみたい〔階級の高い軍人が助手席に乗っていた〕。

梁 どうして階級が高いと思ったんですか。

安 米粒〔밥풀떼기=軍隊の階級章の俗称〕がふたつ、みつつ付いてたから。だから、韓国で言う中尉、大尉くらいだったみたい。中尉なら米粒〔階級章〕がふたつ、大尉なら米粒〔階級章〕がみつつだし。

梁 では、運転する軍人と、助手席の階級の高い

軍人は最後までいたんですか。

安 うん。それから、後〔トラックの荷台〕に私たちと一緒に乗った人も何人か。

梁 後に乗った軍人も何人か最後まで一緒に行っただんですか。

安 うん。

吉見 それはトラックの話ですか。トラックで行って、それから列車に乗るわけですね。

安 そうだよ。トラックだよ。

梁 トラックで行って汽車に乗り換えますね？その時にも、その人たちは一緒に乗ったんですか。

安 一緒に行った人もいるし、また違う人が行ったり来たりしたし。それから随分と行ってから、やたら人が入れ替わり立ち替わりするのよ。

梁 トラックを運転していた人は汽車にも乗って？

安 乗らない。

梁 乗らなかったんですか。

安 うん。運転して駅まで連れて来て、その人たちは帰って。他の人が乗って。

梁 助手席にいた階級の高い軍人は？

安 その人は〔汽車に〕一緒に。

梁 汽車に乗った？

安 うん。

梁 トラックの後に乗っていた人たちは一緒に汽車に乗ったんですか。

安 うん。

梁 それでは運転していた人だけ汽車に乗らなかったんですか。

安 うん。

梁 運転していた人は軍人ではなかった？

安 でも、軍服を着てたよ。

梁 階級章はなかった？

安 うん、よく見えなかった。その横に座ってた

人だけ階級章……。

吉見 一緒に汽車に乗って中国まで行った人は階級が高い人と、他にもいたんですか。

梁 トラックの後に乗っていた人も何人かは中国まで一緒に行ったということですか。

安 うん。

吉見 その人たちはどこまで一緒に行ったんでしょうか。

安 だから中国の部隊。部隊の中まで。

慰安所の様子

梁 初めは原っぱにテントを張ったところにして、それからどこかに移ったとおっしゃってましたが……。

安 うん、空き家に。

梁 その2カ所ですね。では、その2カ所目の空き家までずっと一緒だったんですか。

安 その軍人たち、〔空き家にも〕いた。

吉見 その人たちは慰安所にも通って来たんですか。

安 そりゃあ、来るよ。

梁 軍人として。

安 うん。

吉見 慰安所で世話をする人はどういう人なんですか。

梁 慰安所で女性たちを管理する人はいたんですか。

安 管理する人は、管理する人は……、分からない。あんまり長いこと経ったから、よく思い出せないんだけど……。管理する人がいたのか、いなかったのか、分からないね。

梁 女性たちにご飯をつくってくれたり、病気になったら……。

安 病気になったら病院に軍人たちが連れて行く。

尹 ご飯は？

安 ご飯？ そこでは器もないし、何もないから、つくって食べることもできないし、軍人たちが食べ物をちょっと持って来てくれたりすれば、そこで食べて、どうだったかなあ。ご飯も後になって自分たちで作って食べたんだっただろうか。つくって食べていたような気もするけど。

梁 器もなくて？

安 ないよ、何にもない。軍人たちがご飯を炊いて食べる、なんだ、あれ、ブリキだかなんだかで出来たやつ……。

梁 飯ごう？

安 うん、飯ごう。それでご飯炊いて、おかずだかなんだかを一つに全部載せてるやつ、それを軍人たちが持って来てくれたりして。

吉見 すると、ハルモニを連れて行った軍人の中の誰かが慰安所の中でハルモニたちの世話をするというようなことはなかったんですか。

安 いたんだと思うよ。誰か私たちを管理する人がいたと思う。だから、私たちもそこにいられたんでしょう。

梁 でも、一人も思い出せないんですか。誰か一人、いつもその家にいる人というのはいなかったんですか。

安 思い出せない。今日誰か来て、明日はまた他の人が来て。しょっちゅう変わるのよ、それが。

部隊の行事への参加

梁 それはハルモニたちの世話をする人ではなくて……。

安 私たちの世話をしてくれた人は二人いたような気がする。何か行事がある時には、その人たちが私たちを部隊の中に連れて入って、部隊の中でお餅をもらって食べたりしたよ。

梁 その二人のことが思い出されたんですか。

安 うん。思い出した。

梁 いつもいる人？

安 うん。

梁 その人たちは、最初に精米所からハルモニたちを連れて行った人ですか。

安 違う人。

吉見 その二人は男の人ですか。

安 男だよ。軍人。親切にしてくれたよ、私たちに。ありがたかったよ。時々おかずなんかも持ってきてくれて。その人たちが新暦の正月に、部隊に入ってお餅も食べられるようにしてくれたし。

梁 その人たちが持って来てくれたんですか。ハルモニたちが入って……。

安 [その人たちが] 連れて [部隊の中に] 入って、

梁 そこで歌を歌ったりとか、何か行事があったんですか。

安 そういうことはしないで、ただ行って、食べ物を食べて……。

梁 正月だから。

安 うん。

梁 その時、嬉しかったですか。

安 [お餅を] くれるから嬉しいさ。食べ物がなくてひどかったから、いつもお腹が空いて、あの時のこと思い出すと涙が出るよ。もう涙も乾いたと思ってたのに。

吉見 部隊の中に連れて行ってくれるのは正月くらいですか。

安 何回か入ったことがある。

梁 何か行事があるときに？

安 うん。

梁 お正月以外にはどんな行事が？

安 お正月と……、他にも、12月25日。

梁 12月25日？

安 あれ、教会の人たちの行事あるじゃない。

尹 それは関係ないのでは？
安 関係ないけど、教会の人たちは12月25日にやるじゃない、あんなことを……。
梁 ああ、そういうような行事の時にという意味ですか？
安 うん。とにかく行事の時に何回かは入ったよ。
梁 ハルモニ以外の他の女性たちも歌を歌ったりはしなかったんですか。
安 歌を歌わせたりとかはしないよ。歌ったりしないよ。ただ、食べ物だけ食べて出て来たよ。
梁 日本在住の宋神道さんは、そういう行事の時に歌を歌って賞品としてミシンをもらったと言っていました。
安 ほおー。でも、部隊にミシンなんかあるの？
吉見 宴会はありませんでしたか。
安 そんなところにも何回か行った気がするよ。
吉見 お酒をついだりしたんですか。
安 うん、お酒をついだり。
梁 何回くらい？
安 何回かあったよ。
尹 宴会の場所で抱きつかれたりすることはありませんでしたか。
安 そんなことはしないよ。あの人たちだって人間なんだから。

病院へ行く時

吉見 病院に行く時は誰が連れて行ったんですか。
安 軍人たち。
梁 それはさっき話していた……。
安 うん、あの二人。
梁 その二人は慰安所に軍人として訪ねて来るよ。うなことはないんですよ？
安 来ないわけがないじゃない。

梁 その人たちも来るんですか。
安 〔無言で頷く〕
梁 軍人は軍人だから？
安 うん。

「慰安婦」仲間について

吉見 慰安所では軍人がたくさん来る日と少ない日がありましたか。
安 だから、主に土曜日と日曜日にはたくさん来るし、平日にはあまり……。それに、あの人たちも飛行機の爆撃音があるし、銃声はするし、そんな日には女のこともなんか考えないよ。自分たちも防空壕に逃げたり、大騒ぎなのに、本当に前線なんだよ、前線。だだっぴろい原っぱ、家も何も無い荒野で、とにかく戦場だよ、戦場。しょっちゅう飛行機が飛んで来て爆撃だよ、爆撃。
吉見 それは中国にいる間ずっとそうですか、それともある時期だけですか。
安 ずっとだよ。ずっとひどかった。軍人たちが来て一緒に防空壕に入っていると、その天井がドカン、ドカンって揺れて、アイゴ、怖いなんでもんじゃないよ。命が助かったから今こうして生きているけど、アイゴ。
梁 一緒に行った女性たちの中にも爆撃で死んだ人がいますか。
安 爆撃で死んだ人はいないよ。いつの間にか一人ずついなくなったりしたけど、どこに行ったんだか。最後には何人もいなかったよ。どこかに連れて行ったのかどうか、分からないけど。とにかくいなくなるのよ。
梁 誰かが死んだ記憶はないんですか。
安 私が覚えてる限りでは、ないよ。
梁 最初は何人いたんですか。
安 初めは7、8人いたよ。
梁 一緒に行った12、3人の中から7、8人がそ

こに行ったんですか。それとも行ったら他にもいたんですか。

安 行ったら他にもいたよ。

梁 先に来ていた女性が？

安 うん、何人かいたよ。

梁 空き家に7、8人いたんですか。

安 空き家は、私たちがいたところに、とにかく4人か5人いたよ。

梁 そういう空き家ももう一つあって。

安 うん。

梁 空き家は2軒だけでしたか。

安 空き家が3、4軒あったよ。でも、とにかく誰もいないの。中国人は避難したのか、誰もいないし、火を焚くところもなく、中国人はあの寒いところでどうやって暮らしていたんだか。私たち〔朝鮮人〕は火を焚くところをつくっておくんだけど、あの人たちは火を焚くところもないし、部屋だけつくっておいて……。

梁 その3、4軒の中の、ハルモニがいた家には4、5人がいたんですか。

安 うん。4人。

梁 では、その3、4軒全部に女性が4人くらいずついたんですか。

安 そうだと思う。

梁 他の家のことはよく分からないんですか。

安 うん。

梁 でも、それぞれの家に4人くらいずついたのなら、全部で15人くらいはいたということですか？

安 分からないけど、7、8人はいたよ。

梁 全部で7、8人？

安 うん。7、8人いたんだけど、あちこちバラバラになったり、いなくなったり。

終戦時のこと

梁 戦争が終わる前にいなくなったんですか。

安 うん。

梁 戦争が終わった時、では何人残っていたんですか。

安 二人。私と〔もう一人〕。二人で歩いて……。あ、あの時は、戦争が終わったと思ったら軍人は一人もいなくて、私たち二人だけそこにいたのよ。それで夜中に歩いて出て来たよ。それで歩いて歩いて、アイゴ、たいへんだったのを言葉では表せないよ。あの険しい山を越えて越えて、途中で一緒にいた女の子一人と会ったのよ。途中で一人会って、3人で。だから他の女たちは逃げたのかどうしたのか、とにかく途中で一人と偶然会ったのよ。そうして北京まで出たのよ。

梁 最初に二人だけ残ったのは、同じ家にいた4人の中の二人？

安 うん。

梁 途中で会った一人も同じ家にいた……。

安 うん。

梁 それでは同じ家にいた4人のうち3人が一緒になったわけですね。

安 うん。

梁 他の一人がどうなったかは分からない？

安 分からない。

梁 他の空き家の人たちは？

安 分からないよ。

梁 普段からあまり付き合いがなかったんですかね。でも、行事で部隊に入る時には一緒に入ったんじゃないですか？

安 一緒に行ったと思うよ。

梁 そういう時にだけ顔を見る？ 他の時には……

安 アイゴ、外に出ることもないし、出るのも嫌だし。あっちこっちから銃声は聞こえるし、爆撃もあるのに、出ることもできないじゃない。出られないよ。

梁 全部で7、8人と思うのは、部隊に入る時に見たからなのか、防空壕で見たからなのか。

安 部隊に入った時。

梁 防空壕では会わなかった？

安 防空壕でも見たよ。

梁 防空壕は一つしかなかったんですか。

安 私たちがいた家のすぐそばに一つあって、あっちの方、離れたところにもあった。

梁 じゃあ空き家にいた女たちは？

安 近いところに入るんだよ。

軍人の相手を

吉見 土日は兵隊がたくさん来るということでしたが、そういう日は何時くらいから軍人の相手をしなければならなかったんですか。

安 土曜日と日曜日は朝早く、午前早くから出て来て、夕方は5時、食事時間にはみんな帰って行く。

吉見 夜も相手をしなければいけないんですか。

安 夜にも出て来る人たちがいたよ。

梁 夜に来る人は泊まるんですか。

安 泊まって行く人もいるし、帰って行く人もいるし。

梁 ハルモニがいた家では一つの部屋に女たちがいたというお話でしたよね。泊まって行くと言っても、泊まる部屋がないんじゃないですか。

安 一つの家には部屋は3、4個あったよ。

梁 じゃあ、4人の女性が部屋を一つずつ持っているんですか。

安 一つずつあるときもあるし、軍人が多い時には二人でいるときもあるし。

梁 どういうことでしょうか？ 部屋が……。

安 部屋がないから。部屋がないのに、軍人たちは「ならば〔日本語で発音〕」してるから仕方ないじゃない。

梁 でも、女性の数は同じですよ。

安 人数は同じなんだけど、一軒家がこうあって中に入ると部屋が3つある。私たちは4人いるから、部屋が3つだと、一人は遊んでるわけじゃない。3人は〔軍人の〕相手をして、そしたら〔軍人の人数が多い日は〕仕方なく、一つの部屋にもう一人が入って来て……。

梁 〔女性〕二人で？

安 そう。

梁 部屋が3つしかなかったってことですか。

安 うん。1軒に部屋が3つ。

梁 家1軒に部屋が3つだったんですか。

尹 それなのに女性が4人なら……。

梁 1軒に女性が4人で、全体で7、8人なら、空き家が2軒しかなかったのでは？

安 分からないよ。

慰安所の間取り

梁 とにかく、ハルモニがいた空き家には部屋が3つだったんですね。その部屋はどのように、例えば入口はどこにあったんですか。

安 ただ、こういうふうに、こういうふうに〔手で扉の形や大きさを示す〕。

梁 図を描いてもらえますか。ハルモニは1カ所にずっといらっしやったんですか。

安 1カ所にいたよ。

尹 入口がどこにあって、部屋がどこにあったか。家がこうあったら入口はここにあったんですか。

安 そうだよ。こう入って来たら、ここに〔部屋が〕一つあって、こっちにまた一つあって。

尹 ここに一つ、こっちに一つ。

安 ここにも一つ。

尹 台所とかはなかったんですか。

安 庭があって。

尹 庭があって。
安 うん。
梁 もうちょっと正確に。空き家があると、道がここにあるんですか。
安 道があるよ。
梁 じゃあ、どこに入口があるんですか。
安 ここに。
梁 ここですか。ここから入るんですね。で、入ったらすぐに何があるんですか。
安 門から入ったら庭があって、ここに部屋があって、ここにもう一つあって、ここに一つあって。
尹 庭を中心に部屋が3つあるんですね。
梁 食事をするところはないんですか。
安 あそこでは部屋でみんな食べてたよ。
梁 この部屋で。
安 うん。
梁 とにかく部屋が3つだけある家なんですね。
安 うん。
尹 廊下とかは？
安 ないよ。
梁 庭から直接入る扉があるんですか。
安 扉はあるよ。
梁 各部屋ごとに扉があるんですか。こっちの部屋にはどういうふうに入って行くんでしょうか。
安 こっちから入ってこう入ることもできるし、こっちはこう入ることもできるし。こっちは扉がないし。
梁 では、扉はこっちとこっちにはあるけど、この部屋は、こっちの部屋を通して〔入る〕。じゃあ、軍人は門の前に並ぶんですか、扉の前に並ぶんですか。
安 門の前に並ぶのか、庭に入ってから並ぶのか〔よく分からない〕。
梁 じゃあ、こっちの扉の前にも列、こっちの扉

の前にも列。
安 そうだよ。
梁 じゃあ、こっちの部屋〔C〕に入る人は、この部屋〔B〕の前に並んで、こっちの部屋〔B〕を通過してから〔C〕に入ったわけですね。
安 〔無言で頷く〕
尹 〔Bで〕していることを全部見て通るってことね。
梁 女性が4人なので、二人の女性が一つの部屋を使わなければならない時には、どの部屋を使ったんですか。
安 アイゴ〔ため息〕。
尹 ハルモニが二人で一つの部屋を使うこともあったんですか。
安 〔うなずく〕
尹 いつもではなくて？ ある時は一人、ある時は二人で？
安 〔うなずく〕

軍人の暴行を逃れて

尹 隠れようと思ってクドのようなところに入ったことがあったって言ってましたよね。
安 それは違うところ。
尹 ここじゃなくて？
安 うん。他のところに引っ越したの。
梁 あ、移ったんですか。
尹 ここに最後まではいなかったんですって。
安 そこもまた空き家なんだけど、そこに入ったの。そこは火を焚く場所、火を焚く場所じゃなくて、クドみたいにつくってはあるんだけど……。
尹 穴だけあるんですか？
安 うん。
尹 部屋の下に？
安 うん。
安 変でしょう？ ある日の夕方、将校が出て来

て私に悪態をついたの。それで私も腹を立ててた
てついたら、〔その将校が〕刀を抜いて脅すの
よ。それで恐くてブルブル震えて座り込んで。そ
の人が少しお酒を飲んでたみたい。それでそこ
から、部屋から何とか抜け出したのよ。部屋から抜
け出したんだけど、だだっ広い荒野だから隠れる
ところもないじゃない。それでクドみたいなのが
一つあったから、そこに入って隠れたのよ。そい
つが私を捜して〔家の周りを〕何周も回ってたけ
ど、しばらくして見たら、いなくなってたの。

尹 部屋の下に穴が掘ってあるんですか？

安 うん。

尹 そんな家があるの？

別の慰安所に移動

梁 その家には、最初の空き家を出た後で、その
次に行った家ですか。

安 うん。

梁 最初の空き家を出て、次の家に行く時にはま
たトラックに乗って行ったんですか。

安 いや、そのまま。歩いて。

梁 近いところだったんですか。

安 うん、近いところ。

梁 じゃあ、部隊は同じ……。

安 そうよ。

梁 部隊は同じ場所にあって、ハルモニたちの家
だけ移ったんですか。

安 うん。

尹 女性たちだけ移ったんですか。

安 うん。

梁 最初の空き家から次の家まで歩いてどれくら
いかかりましたか。

安 2時間くらい歩いたと思う。

梁 では部隊からは遠くなったんですか。

安 うん、遠くなったよ。そっちに行ったら別の

部隊がテントを張っていたよ。

梁 では、相手をしなければならぬ部隊が別の
部隊に変わったんですか。

安 同じだよ。女たちだから〔歩くのに〕時間が
かかるけど、男たちはもっと早く来るんだから。

梁 じゃあ、元の部隊からも来るんですか。

安 来るよ。

梁 では、最初の部隊も相手して、新しく移った
ところにいた部隊も相手にするんですか。

安 うん。

尹 女性の人数は増えなかったんですか。

安 もうこんな話はしたくないよ。

梁 家移った後も、面倒を見てくれる軍人は同
じ人でしたか。

安 他のところに引っ越した後は別の人がまた。

梁 さっき言った、親切な二人ではなくて？

安 うん、その人たち〔前に面倒をみていた二
人〕は時々様子を見に来て。

梁 様子を見に来るといふのは、遊んで行くん
ですか。

安 そりゃそうだよ。

梁 相手をしたんですか。

安 〔うなずく〕

梁 こっちにはこっちで面倒を見てくれる人が
いて？

安 うん、担当者がいた。

吉見 新しい家に移ったら、そこは7、8名に
なったってことですか。

安 違うよ、別れたんだよ。何人かは残って、私
たちはそっちに移って、半分はあっちに残って、
半分はこっちに移って。

梁 ハルモニと同じ家にいた4人は全員で一緒に
移ったんですか。

安 うん。

梁 じゃあ、もう1軒の方にいた人たちが残っ

て、ハルモニの家の女性たちが全員移った？

安 うん。

吉見 新しく移った家は4部屋あったんですか。

安 そこは部屋が3つ。

梁 最初の家も部屋が3つで、今度も3つ？

安 うん。そこも3つ。

吉見 そうすると二人一緒に住むのは誰と誰ですか。

安 私ともう一人。

梁 一番若い子？

安 うん。

梁 一緒に部屋を使っていた女性はハルモニと同じくらいの年齢でしたか。

安 年上だよ。

梁 何歳くらい離れてましたか。

安 3～4歳上もいるし、2歳上もいるし。

梁 いつも一緒に部屋を使う人が決まっていたわけではないんですか。

安 うん、決まっていたはいいない。

尹 一番年下だったからかね、きっと。一番若いからそうだったのね。

安 [無言でうなづく]

梁 それは移った方の家だけ？ 最初の家でもそうでしたか？

安 [うなづく]

梁 ハルモニの部屋は、ここ[最初の家]ではどこだったんですか。

安 [図を示す]

梁 ここですか。庭から直接入っていくこの部屋です。軍人の相手をするときには、じゃあこの部屋で一人、こっちの部屋で一人。ハルモニの部屋で二人というのがほとんどだった？

安 [無言でうなづく]

梁 2番目の家でも、ハルモニは誰かと同じ部屋を使っていたから、軍人がすごく多い時には二人

が1部屋で相手をしなければならなかったんですか。

安 [無言でうなづく]

吉見 しきりの布などがなかったというのは、この部屋のことですね。

安 [吐き捨てるように][仕切りなど]ないよ！

尹 戦争が終わるまで移動しないでそこにいたんですか。

安 うん。

梁 では最初が荒野のテントで、次が空き家、その次がクドのような穴が掘ってある家の3カ所ですね。

尹 クドみたいになって言ったけど、地面に掘った倉庫みたいなのところなんですって。韓国でも昔、サツマイモなんかを長く貯蔵するためには地面に穴を掘って貯蔵したのよ。

梁 どこが一番長くいましたか。

安 [最後の]クドのある家。

梁 その家はどんな構造でしたか。

安 同じだよ。あそこでは家を同じようにつくるんだよ。

梁 じゃあ、最初の家にもクドのようなものが……。

安 ないよ。そこにはなかった。

[人間として扱われなかった]

吉見 ハルモニは「人間として扱われなかった」とおっしゃってしまして、お話を聞いてその通りだと思んですが、一番辛かったことはどういうことですか。

安 辛かったのは、身体が痛くても、誰にも言うこともできないし、アイゴー、それに耐えなければならぬのが一番辛かったよ。痛いのが一番辛いよ。

梁 「痛い」というのは、身体の具合が悪い時と

という意味ですか、それとも軍人の相手をして「痛い」という意味……。

安 そうだよ〔軍人の相手をして痛いという意味〕。

尹 痛いとか具合が悪い時にも軍人の相手をしなければいけないし。

安 アイゴー、言葉にはできないよ。パンパンに腫れて、本当に、アイゴー。ただ赤チンを塗って、スカートを真っ赤にして歩いて、アイゴー、あれをどう表現すればいいの、アイゴー。だから、誰かがこういう話しをすると、今でも涙が出ちゃうのよ。お前どうしてそんなに泣くんだった言われるけど、自然と涙が出ちゃうんだもの、仕方ないじゃない。考えると本当に、アイゴー、悔しいし。これを一体誰に言えればいいの。ここで私のことを知って訪ねて来たから話したけど、うちのお母さんもこの話は知らないよ。親に話しても悲しむだけだから、絶対に言うことはできないよ。

尹 私も、ここまでのことは今日まで知りませんでした。以前にお話は聞きましたけど。当時もハルモニは「獣のような生活だった」って言ってたけど、それはただ象徴的に言っているだけだと思ってました。ところが本当に「獣のような」、獣だってこんなことはしないでしょ。でも、ハルモニがこの話をしてくれなかったら実態は分からなかった。話してくれてありがとう。

安 忘れようとした頃にまた思い出して、また忘れようとした頃に思い出して、アイゴー。この痛みを全部抱いたまま私たちがみんな死んだ後で〔日本政府が〕何かしてもしょうがないのに。

性病感染

梁 性病にかかったことはありましたか。

安 606号をどれほどたくさん打たれたか。病院

に行くとき……。

尹 ハルモニ、舌を出してみても。ハルモニは舌を半分切り取っているんです。舌癌にかかったのです。それも性病の後遺症だと、ハルモニは考えているんです。

梁 他の後遺症はなかったんですか。

安 はじめ中国から韓国に戻ってきた時に仁川の海から2週間後にやっと降りたんだよ。来るのに1週間、仁川で1週間。2週間後にやっと船から降りたんだけど、身体の具合が悪くて、5ヵ月間寝込んだの。その時、みんな〔私のことを〕死ぬと思ったって。韓国に戻って親に会えて、あそこでの後遺症が一気に出て病気になったんでしょう。

梁 証言集には大邱にいる時にも606号を打つたと書いてありましたが……。

安 うん。大邱にいる時にも。根が簡単には抜けないじゃない。

梁 大邱にいたのは朝鮮戦争の時ですね。米軍基地の近くにおいて、具合が悪いから病院に行ったら606号を打たれたということですか。

安 うん〔うなずく〕。

吉見 ペニシリンではなかったですか。

安 大邱でも606号を打たれたんだよ。

梁 中国で打たれたものと同じ臭いでしたか。

安 もちろん。鼻にツーンと来るあの「黄色い」臭いがしたよ。

尹 韓国の民間病院にも当時606号があったのね。

安 日本時代からのあったんでしょう。今でもあるんじゃない？

尹 今は他にいろいろ薬があるから。

吉見 ペニシリンとか。

安 ペニシリンは淋病でしょ。梅毒は606号。

申告と「対人忌避症」

吉見 日本では、嫌なら軍人を拒否する権利があったと主張する人々がいるのですが、

安 断ったら殴られるよ。銃で撃たれるかもしれないのに、どうするの。

吉見 帰って来た後も結婚しなかったのは、男が嫌になったからですか。

安 どうやって結婚なんかするの。あんな目に遭ってきた人間が、人に迷惑かけられないよ。結婚しない方がいいでしょ。自分の良心が許さないのよ。それでも今日までこうやって生きているんだから、あなた〔尹美香氏〕にも会えたり、あなた方にも会えたり。当時死んでいたら……。うちのお母さんが私が戻ってくるようにとずいぶんお祈りしてくれたのよ。麻浦港でトッケビと闘いながら祈ってくれたおかげだと思う。韓国に帰って来てからその話を聞いて思ったの。中国で光復軍に出会えたのも、そのおかげじゃないかって。偶然会って、ご飯も食べさせてくれて、一緒に暮らそうって。子どもも何人かいる人だったのよ。ところが自分の家に来て暮らせて。

尹 尹氏だからよ〔光復軍の名字は尹氏だった〕。尹氏は優しいのよ（笑）。

梁 でも、最初にこっちの尹氏〔尹美香氏〕が訪ねて行った時には口もきかなかったと聞いていますが。

安 〔水原〕市役所の福祉課の職員、女性職員が、私にこう言ったのよ。「ハルモニ、もしかしてソウルから電話がありますか」って。「ソウルから誰に電話が来るって言うの。来ないよ」って言ったら、「もしもソウルから、挺対協から電話があったら、絶対に相手にするな」って言うのよ。

尹 そうなんですって。それで、彼女たちが勝手に「対人忌避症」って書いて、電話番号も書かなかったのよ。

安 会うなって。韓国の威信の問題だからって。なぜ会っちゃいけないのって聞いたら、「ハルモニ、韓国の威信の問題です」って。だから絶対に会うなって。それで恐くなって（笑）、恐くなって初めは会おうとしなかったのよ。

尹 この話をずっと後になってからやっとしてくれたんですよ。本当に最近になって、この話をしてくれたんですよ。

梁 年配の女性でしたか。

安 いや、この子〔尹美香氏〕と同じくらいの年の女性職員が。

尹 あの頃はみんなそうだった。あの頃は年取った人も、若い人も、みんな恥ずかしいことだと思っていたから。

梁 申告は受けておいて？

安 申告は受けておいて、電話が来てもとるな。会うなって。ところが会ってみたらこんなにいい子なのに、もっと早く会えば良かったって。全く。

梁 それじゃあ、初めて会ったのはいつですか。

尹 2002年度に会いました。

梁 お兄さんが申告したということでしたが、それは何年？

尹 90年代の後半だったと思う。

安 最初はテレビに出たのか何か、私は知らなかった。私はその頃、大邱に住んでたし。ところが義姉〔兄の妻〕が、私があそこに行って来たことを知ってるのよ。お母さんがいればお母さんが何とかしてくれたと思うけど、お母さんもいないし。義姉が兄さんと相談したみたい。あんなふう中国に行って来た人たちがこうこうしてるから、うちも申告するべきなんじゃないかって。末の姪っ子がしっかりしてるのよ。今、暮らしも一番いい暮らしをしてるし。その子が、自分の父親の話を聞いてすぐに、「お母さん、一緒に行こ

う」って言って申告したんだって。自分の叔母のことを。

梁 ハルモニには言わずに？

安 うん。言わずに、^{チュンク}秋夕の時に私がここに来たのよ。その時に言われたの。「中国に行って来た人たち、みんな申告しろって言うから、叔母さんのことも申告したよ」って。

梁 ハルモニは大邱に住んでいたけど、お兄さん一家が住む水原で申告したんですね。

安 うん。

尹 2002年に初めて会った日も雨でした。

梁 それまでは来ても会えなかったんですか？

尹 いや、対人忌避症だって言うから、そっとしておかなければならないと思って、遠慮してたんですよ。ところが対人忌避症がどうも気になってしょうがないんですよ。「対人忌避症」っていう単語が気になって気になって、逆に会いたっていう意味じゃないかって思い始めて、電話をかけてみたら、ちょうど水原市の職員も代わったんですよ。男性職員に。その職員に話をして、ハルモニの連絡先を教えて欲しいって言うてみたんです。申告書には住所も、電話番号も、何もなかったの。それでその職員を説得して、私が直接来たんです。

梁 当時、水原には安ハルモニしかいなかったんですか？

尹 そうです。

生まれ変わったら

吉見 ハルモニは生まれ変わったら何になりたいですか。

安 何になりたいって（笑）。また女に生まれて、良い家庭を築いて暮らしてみるのが夢だよ。

ミョンサボ〔面紗布＝花嫁のカンザシにつける布〕も被ってチョットリ〔頭につける冠〕もつけ

てみて。

吉見 台湾のママは結婚式のドレスを着てみたりしていますが、そういうことをしてみたいですか。

安 今でも？ そりゃあ、してみたいよ。でも、相手がいないじゃない（笑）。

解放後のこと

梁 2002年に初めて来た時にはすぐに会ってくれたんですか。

安 うん。

梁 恐くなかった？ 初めて会った時どんな感じがしましたか。

安 良かったよ。

尹 ため息ばかりついてましたよね。こっちは話を聞くわけにもいなくてハルモニの様子ばかり見て。

梁 証言集6は名前が石^{ソク}スニになっていますが。

安 うちのお母さんの名字が石なのよ。石ボンソン。兄が日本時代に軍隊に行かなきゃいけなくなって、日本時代は軍隊に行ったら必ず死ぬと思われてたのよ。それで軍隊に行かせないために、独国籍〔独立戸籍〕をつくったのよ。それから私と妹は母の家の方に入れて石点順って変えて。

尹 国籍をみんなバラバラにしちゃったんですね。

安 うん。

尹 だからなくしちゃったわけですね。お兄さんは独立した名前にして、娘たちは母方の国籍に入れて。

梁 じゃあ安さんはいなくなるんですか？

尹 そう。

梁 そうしたら軍隊に行かなくても良くなるんですか。

安 分からないけど、何か理由があったんでしょ

う。

尹 行政が把握できなくなるから。

梁 いつそれをやったんですか。

安 だから日本時代に。解放後は住民登録をつくることになったんだけど、それつくる時には、私は石じゃない、私の根は安氏だ、と言って、それじゃあ戸主は誰かって言うから安ヨンスだ、それで安ヨンスの下に入ったのよ。

梁 妹は？

安 妹も。安グムスン。

梁 お兄さんはそこまでののに、軍隊に引っ張られたんですか。

安 行ってない。

梁 あ、行ったのは朝鮮戦争の時？

安 6.25〔朝鮮戦争〕の時は私たちは大邱に避難してたのよ。大邱のチルソク洞で寝てたところを捕まったのよ。朝起きてみたらお兄さんがいなかったの。明け方連れて行かれたのよ。お母さんと私たちとで兄を捜して山の中とか、もう行かなかったところがないくらい。部隊にも行って聞いてみたりして。でも見つけれなくて、そのまま家に帰って来たのよ。ところがある日、誰かが「チョムスナ〔点順〕、チョムスナ」って呼ぶのよ。あの人通りの多い場所で呼ばれて、なんか聞いたことのある声だなと思って見たら、トラックにびっしり人が乗ってたよ。その中から声がして、見てみたら兄さんだったのよ。そこで兄さんが飛び降りて、私と一緒に家に帰ったのよ。

梁 お兄さんは富士山で訓練を受けていたという話してましたね？

安 うん。日本で、富士山の麓で訓練を受けてたんだって。ここから連れて行かれて、まっすぐ日本に行って訓練を受けたんだって。

吉見 米軍の訓練場が富士山にありました。

梁 では、日本時代には軍隊に行っていないんで

すね。

安 うん。行ってない。

梁 前回よりも具体的なことがよく分かりました。

尹 多分、前回一度話して記憶が蘇ったみたいですね。お疲れさまでした。

連行時・解放時の年齢について

梁 あと一つだけ。ハルモニが中国に連れて行かれたのは何歳の時ですか。

安 14歳。

梁 それが満で14歳だとおっしゃいましたよね？

安 うん？

梁 満じゃない？ かぞえて14歳ですか？

安 うん。

梁 16歳とも言っていたように思うんですが。

安 ううん。14歳。年も幼くて、身体も。私は14歳の時、身体も大きかったのよ。身体を見て……。

尹 当時60kgあったっておっしゃってましたよね。

安 うん。

尹 あの時代に、本当に大きかったんですね。

安 それで秤で量って連れて行ったんじゃない。

梁 干支は何ですか。

安 辰年。

梁 じゃあ、1928年生まれですね。

安 うん。28年生まれ。

梁 12月2日生まれでしたよね？

安 うん。

梁 旧暦ですね？ そうすると前回考えていたよりも2年早くなりますね。

吉見 39年ですかね。

梁 それじゃあ満だと12歳だったってことですか。39年じゃなくて、1940年じゃないですか。解

放された時が17歳だと言っています。1928年生まれに17年足すとちょうど1945年。帰って来た年を満年齢で言っているわけだから、連れて行かれた年も満年齢なのでは？

尹 いや、帰って来たのが46年だから、数え17歳だとぴったり合う。

梁 いや、合わないでしょ。1928年生まれが数え17歳なら1944年になる。

尹 ハルモニ、ハルモニは解放後1年中国にいてから帰って来ましたよね。その帰って来た時が17歳ですか、それとも解放された時が17歳ですか。

安 解放された時が17歳！

尹 じゃあ、家に帰って来たのは18歳ですね。

安 そうよ。

梁 干支が辰年だと1928年ということになりますが、旧暦の12月生まれなので実際には陽暦の29年1月頃に生まれてるということはないかしら？

尹 分からない。そこら辺は難しい。ハルモニ、28年生まれというのは、後から年齢を聞いて戸籍をつくる時に28年生まれって推定したんですよね？

安 うん。

（商学部教授・日本現代史）